

ITセキュリティ・コンサルタント 吉田柳太郎さん がすべてを語る

## 地域住民と自治体のための

2004年9月1日 発行  
吉田柳太郎・西邑亨 著 七つ森書館 刊  
定価 1500円 + 消費税 四六判 200ページ

# 住基ネット・セキュリティ入門

自治体関係者のセキュリティ研修に最適・首長さん必読

## セキュリティは専門家じゃないと口が出せない——なんてウソ!!

この本を読むのに技術の知識は不要です

「セキュリティ/個人情報保護」について、分からなかったこと・知りたかったことを全部(!?), ITセキュリティ・コンサルタントの吉田柳太郎さん(長野県安全確認実験監督者)がお話します。

もう「住基ネットのセキュリティ」なんて 秘密でも何でもありません!

「私のプライバシーを守る」ためになにをするのか? 答はあなたがこの本の中から見つけてください。

<本書「もくじ」より>

- 第1章 [あたまとの転換] 毅然とした態度でいいわけが出来ますか?
- 第2章 [ことばのおさらい] ファイアウォール・VPN・IDS
- 第3章 [セキュリティ対策の限界] セキュリティレベルを100%にできないのはなぜ?
- 第4章 [セキュリティ対策の基本] やっておかなければならないことはなに?
- 第5章 [セキュリティ対策のコスト] 損失を防ぐ投資は利益を生む投資と同じものです
- 第6章 [不正アクセスの実態] 不正アクセスはどうやってやるの?
- 第7章 [セキュリティ対策の実際] 民間企業はどんな対策メニューを採用しているの?
- 第8章 [具体的な対策:長野県「安全確認実験」の結果から] まずパッチをあててください
- 第9章 情報セキュリティ10原則 できないことはやらない!

まえがきより 住基ネットの議論は、「安全/危険」の話ではありません。ネットワーク社会の「メリットと闇」をどう読み取るかがポイントとなる議論なのです。多くの情報セキュリティ技術者・研究者からは、現在の住基ネットをめぐる国(総務省市町村課)の議論は、技術以前の「超低レベル」のものに見えています。つまりここで必要とされているのは、議論の質的転換なのです。

ネットワーク社会の「メリットと闇」を直視した、広範な社会的議論が、的確なポイントを押さえるものとして深化されて行くなら、住基ネットは現在のものとは本質的に異なるシステムになっていくでしょう。本書は、そうした議論の一步となることを目指しています。



ご注文・お問い合わせは